

1. 魚介類調査結果

1. 魚介類調査

1.1 魚介類調査結果の概要

(1) 確認種

今回とりまとめを行った 59 水系 65 河川で確認された魚類は 17 目 60 科 238 種、エビ・カニ・貝類は 18 目 66 科 166 種でした。

魚類の確認種数が最も多かった一級河川は、近畿地方の円山川、九州地方の大淀川の 87 種でした。二級河川では、東北地方の鮫川の 49 種でした。

エビ・カニ・貝類の確認種数が最も多かった一級河川は、九州地方の球磨川の 78 種でした。二級河川では、九州地方の大江川の 39 種でした。

(2) 特定種

今回とりまとめを行った 65 河川で確認された特定種は、魚類では天然記念物に指定されているネコギギや絶滅危惧 IA 類に指定されているニッポンバラタナゴ等 39 種、エビ・カニ・貝類ではレッドリスト絶滅危惧 I 類に指定されているナカセコカワニナ等 13 種でした。

魚類の特定種の確認種数が最も多かった河川は、九州地方の球磨川の 8 種、次いで中国地方の日野川、九州地方の六角川の 7 種でした。

エビ・カニ・貝類の特定種の確認種数が多かった河川は、東北地方の高瀬川、中国地方の笹ヶ瀬川、九州地方の球磨川の 4 種、次いで中部地方の木曾川(長良川)、九州地方の六角川の 3 種でした。

(注) 特定種について

本資料においては、次の文献のいずれかに該当する種や亜種を特定種としました。

- 「文化財保護法」の特別天然記念物および天然記念物
- 「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」の国内希少野生動植物種および緊急指定種
- 環境省(庁)編「日本の絶滅のおそれのある野生生物—レッドデータブック」掲載種(2003：魚類)
- 環境省(庁)編「レッドリスト」掲載種(2000：無脊椎動物および陸淡水貝類)

(3) 外来種

今回とりまとめを行った 65 河川で確認された外来種は、魚類ではニジマス、オオクチバス(ブラックバス)、ブルーギル等 15 種、エビ・カニ・貝類ではスクミリンゴガイ(ジャンボタニシ)、サカマキガイ、アメリカザリガニ等 12 種でした。

今回とりまとめを行った 65 河川のうち、45 河川で外来種が確認されました。魚類の外来種の確認種数が最も多かった河川は、関東地方の利根川(常陸利根川)の 10 種、次に東北地方の阿武隈川及び近畿地方の淀川(淀川)の 6 種でした。地方別では、北海道地方で 1 種と最も少なく、関東地方で 10 種と最も多く確認されました。

今回とりまとめを行った 65 河川のうち、50 河川で外来種が確認されました。エビ・カニ・貝類の外来種の確認種数が多かった河川は、九州地方の球磨川の 6 種、中部地方梅田川の 5 種でした。

(注) 外来種の選定基準について

本資料における外来種とは、おおそ明治以降に人為的影響により侵入したと考えられる国外由来の動植物全てを指し、侵入以後に国内に定着した種であるか否かの判断は、困難な種があるため選定の際に考慮していません。また、外来種の選定には、資料 I.6 (26~27 ページ)および 28 ページに掲載した文献と学識者による意見を参考に行っています。